３面白くて眠れなくなる社会学（橋爪大三郎）

　幸福とは、どんな状態かと言うと、自分はこれをやるために生まれてきたんだ、と思えることです。もし思えたら、それはとても充実している状態です。それは、幸福です。それは自分が、持って生まれた、隠されていたものを、いま発揮しているぞという①内側からの感覚と、それを「ああ、すばらしいですね。」と評価してくれる、社会の側からの客観的な評価とが、結びついた状態だと思います。別に世界一や日本一になる必要は、全然ありません。充実しているなあと思えることが、いちばんです。

　昔、日本にはこういう、［　Ⅰ　］がよくいました。うどんをつくる。（　Ａ　）を抜かないで、ちゃんとしたうどんをつくる。小さなお店かもしれないが、うどんを出して、お客さんがおいしいと食べる。で、②うどん屋としてやっていける。これがすべてで、そこに、妥協の余地のない自分の世界がある。なんていうひとが、たくさんいたのです。

　いまはこういう仕事を見つけにくい時代なんだけれど、でも見つかるはずです。それには工夫と努力が必要です。努力とは、コストを払うことですから、努力しても空ぶりになるかもしれないんですね。空ぶりになるって、［　Ⅱ　］ですね。

　リスクを取らないと、努力はできないんです。努力は報われると決まっていない。で、そのリスクは、社会の側で埋め合わせてくれないから、自分で負わなければいけない。ダメだったらめげますけれど。ダメだった理由があるわけで、それをしっかり踏まえるなら、また次の［　Ⅲ　］があると思います。

　若いひとの場合は、二回や三回、挫折しても大丈夫ですから、そういうチャレンジを引き受けるほうがいい。チャレンジするなら、全力を出さないと、チャレンジにならないです。本気でやってはじめて、ダメなときに挫折ができます。

　③挫折も大事です。自分の適性や、社会の現実を思い知ることができるから。そうやって、行けるところまで行かないと、自分の隠された力は出てこないと思います。

問１　――線部①は、どんな「評価」の表れか。自分で考えて、次の解答欄に合うように漢字三字で答えよ。

〔　　　 　〕な評価

問２　［　］Ⅰに入る内容として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　芸術家みたいなタイプの人

イ　器用な万能選手みたいな人

ウ　職人さんみたいなタイプの人

問３　（　）Ａに入る漢字として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　手　　イ　肩　　ウ　足

問４　――線部②のような状況になるのは、どういう現象が生じた場合のことか。自分で考えて答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問５　［　］Ⅱ・Ⅲに入ることばをそれぞれ文中から抜き出して答えよ。

Ⅱ＝〔　　　　 　　〕

Ⅲ＝〔　　　　　　　　 　　　〕

問６　――線部③について、筆者がそう述ベるのはなぜか。理由として、適当でないものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　限界まで力を出し尽くすことによって、隠れていた自分の能力に気づくことができるようになるから。

イ　失敗することでこれまでのあり方を反省し、視野がひろがって他人の痛みを思いやることができるようになるから。

ウ　失敗した経験を通して、自分が何に向いていて、何に向いていないのかを知ることができるようになるから。

問７　上の文章の題名として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　幸福と不幸と

イ　幸福と努力

ウ　幸福とはなにか

【解答】

問１　主観的（な評価）

問２　ウ

問３　ア

問４（例）お客さんが来店し続けてくれる。

問５　Ⅱ＝リスク

　　　Ⅲ＝チャレンジ

問６　イ

問７　ウ

ポイント

問１　「客観的な評価」（７行目）に結びつく、もう一つの「評価」。それは「客観的」と対立する「内側からの感覚」＝主観的評価。

問３　「手を抜く」は、「手数をはぶき、いい加減にすます」意の慣用句。